

第2章 指定地周辺の概要

第1節 自然的環境

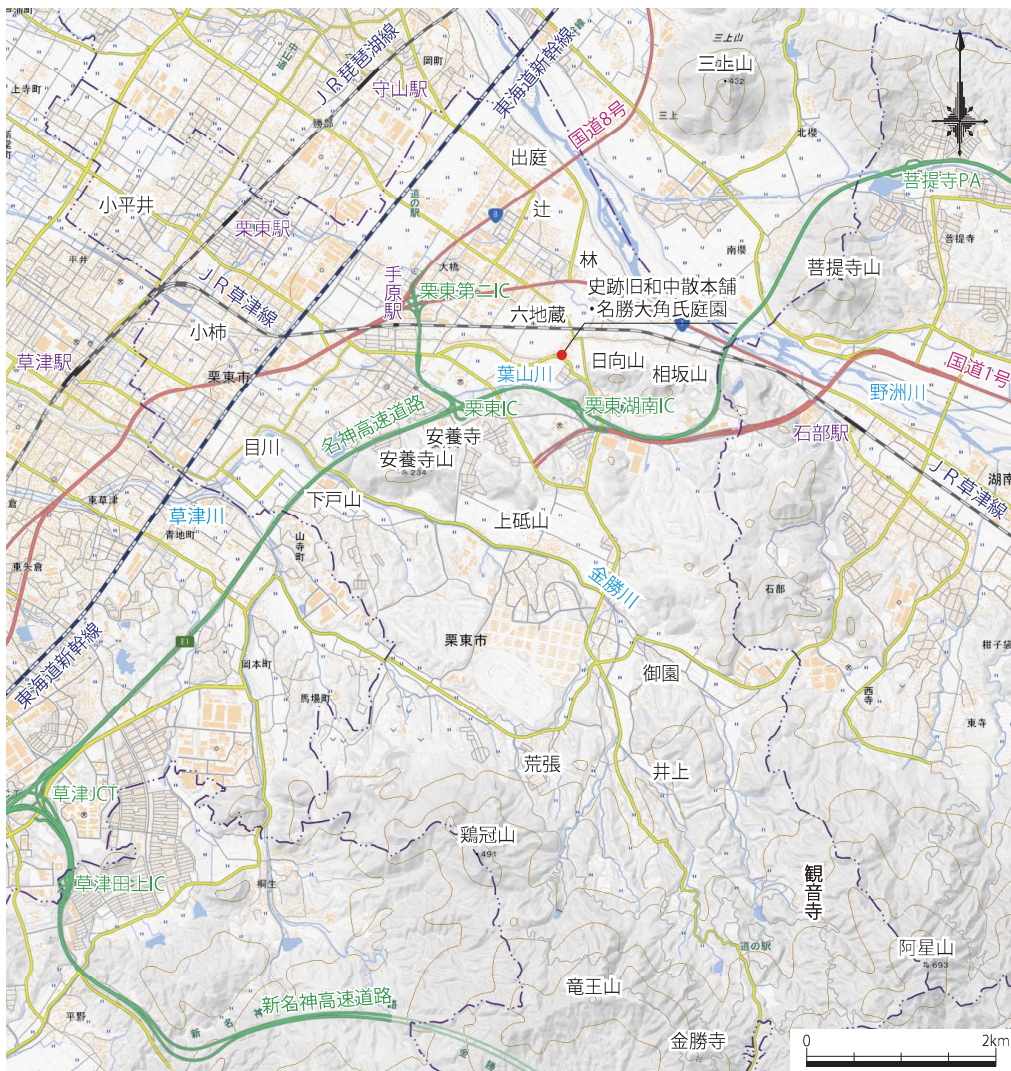
第1項 位置

指定地のある滋賀県栗東市は、滋賀県南部の湖南地域に位置する。南部は標高 693m の阿星山を中心とした金勝山系から広がる山地と丘陵地帯を形成し、市域の半分を占める。北部は近江盆地の沖積平野の一部を形成する。北東は野洲川、中央は葉山川、金勝川、西は草津川があり、それぞれ琵琶湖に注ぐ。

指定地は栗東市東部の六地藏に位置する。南東に日向山や相坂山などの丘陵があり、野洲川は南東から北東へ、葉山川は南から西へ流れる。北東の遠景に三上山（近江富士）を望む。



[図 2-1] 位置図 (1 : 1,250,000)
(国土地理院地図に加筆)



[図 2-2] 位置図 (1 : 80,000)
(国土地理院地図に加筆)

第2項 地形

指定地のある栗東市は、南部は信楽山地に属する金勝山系が連なり、そこから北部にかけて丘陵地帯(栗東丘陵)が広がる。北部は近江盆地の一部に含まれ、緩傾斜の沖積平野を展開している。

指定地が位置する栗東市六地藏は、近江盆地の南辺縁部にあたる。南域は日向山や相坂山などの丘陵地帯があり、北域は野洲川や葉山川の氾濫によって形成された扇状地や自然堤防が広がり、周辺は河川のかつての流路である旧河道が点在する。また人工地形においては、南域は切土地、北域では高い盛土地が多くみられる。

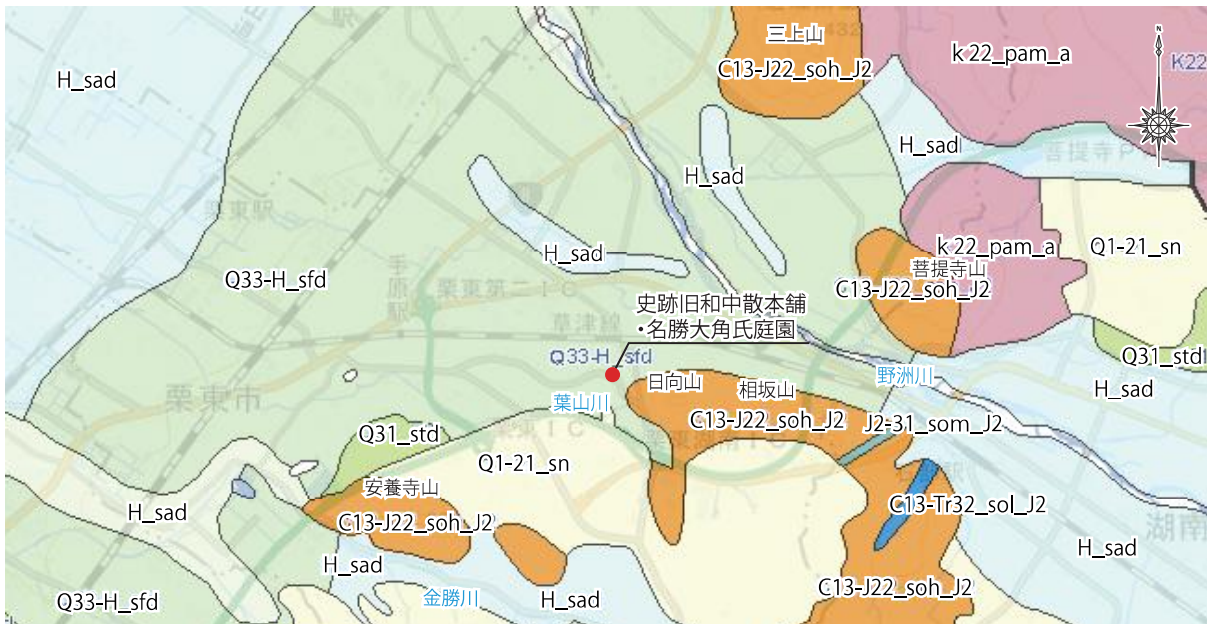
指定地は自然堤防に分類される。河川の氾濫によって形成された微高地で、周囲よりも標高が0.5～数メートル高い。また指定地周辺の東海道や寺院は、このような自然堤防の微高地上に造成されている。このほかにも指定地南側の県道116号(六地藏草津線)は旧河道に敷設されており、近年まで葉山川が流れていた。



[図 2-3] 土地条件図 (1:15,000)
(国土地理院地図「地形分類図」に加筆)

第3項 地質

指定地の地質は、新生代（第四紀 後期更新世後期～完新世）に形成された扇状地・崖錐堆積物（Q33-H_sfd）の岩相からなる。周辺の地質は、北東から南にかけて古生代（石炭紀 ペンシルバニアン亜紀 後期ミシシッピアン亜紀）から中生代（中期ジュラ紀 バッジョシアン期）に形成されたチャート（中期～後期ジュラ紀付加体）（C13-J22_soh_J2）、古生代（石炭紀 ペンシルバニアン亜紀 後期ミシシッピアン亜紀）から中生代（後期三畳紀 ノーリアン期）に形成された海成層・石灰岩（中期～後期ジュラ紀付加体）（C13-Tr32_sol_J2）、中生代（中期ジュラ紀～後期ジュラ紀 オックスフォードイアン期）に形成された海成層・泥岩（中期～後期ジュラ紀付加体）（J2-31_som_J2）、中生代（後期白亜紀 カンパニアン期～マーストリヒチアン期）に形成された花崗岩（塊状 島弧・大陸）（K22_pam_a）の岩相からなる。南西は新生代（第四紀 更新世 ジェラシアン期～前期チバニアン期）の非海成層（Q1-21_sn）の岩相である。その他に、新生代（第四紀 後期更新世前期）の段丘堆積物（Q31_std）や新生代（第四紀 完新世）の谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物（H_sad）がみられる。



凡例

代	紀	地質時代	堆積岩				付加体		火成岩	
			扇状地・崖錐堆積物	谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物	段丘堆積物	砂岩ないし砂岩・泥岩	チャート	石灰岩		
新生代	第四紀	完新世	Q33-H_sfd	H_sad						
		更新世			Q31_std					
	第三紀	白亜紀							K22_pam_a	
		ジュラ紀					J2-31_som_J2			
中生代	白亜紀	後期								
		前期								
		ジュラ紀	後期							
			中期							
			前期							
		三畳紀	後期							
	中期									
	前期									
	古生代	ペルム紀	ローベンジアン世							
			グアダルピアン世							
		石炭紀	シスウリアン世							
			ペンシルバニアン世	後期						
中期										
前期										



【図2-4】地質図（1：60,000）
（産総研地質調査総合センター「20万分の1日本シームレス地質図V2」<https://gbank.gsj.jp/seamless/>）に加筆

第4項 気候

滋賀県の気候は、日本海気候区、東海気候区及び瀬戸内気候区が重なり合う地域で、準海洋性の気候を示す温和なところである。滋賀県南西部の湖南地域にある栗東市は、大津市・草津市などとともに湖南気候区に属し、年間を通じて比較的温暖な気候である。また積雪は年に1～2回みられる。

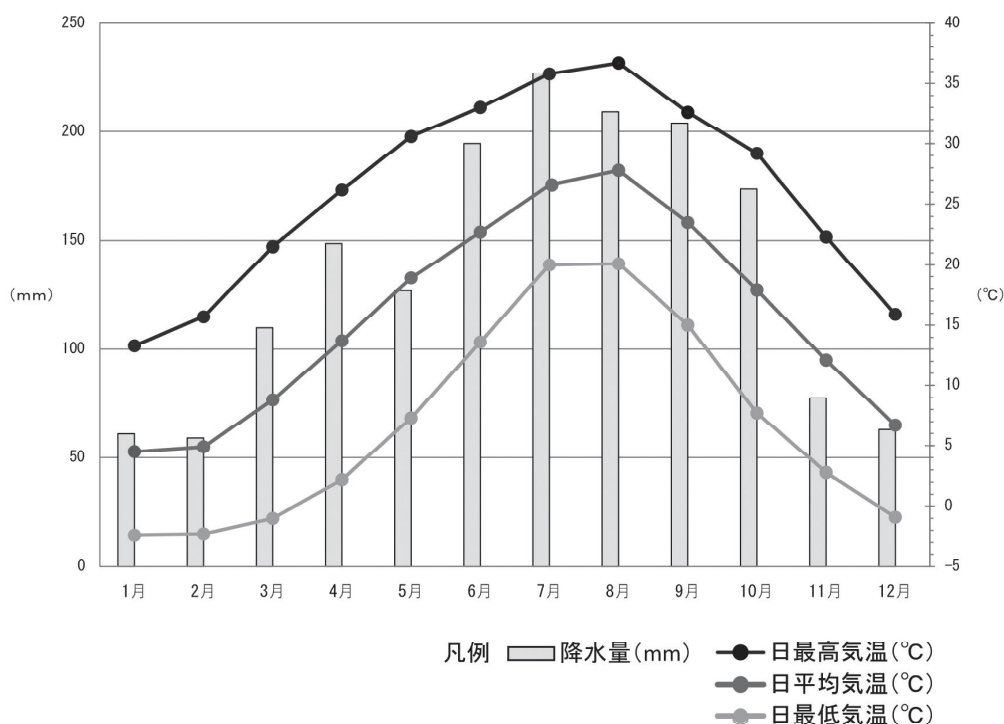
大津観測所による観測では、令和5年（2023）の年間平均気温は16.3℃で、最高気温は38.5℃（8月）、最低気温は－3.8℃（1月）、合計降水量は1407.5mm、平均湿度は71%だった。

[表 2-1] 年間月別平均気象推移

観測所：大津

月	降水量 (mm)	降雪量 (mm)	日平均気温 (°C)	日最高気温 (°C)	日最低気温 (°C)
1月	61	0.0	4.5	13.3	-2.4
2月	59.1	0.0	4.9	15.7	-2.3
3月	109.9	0.0	8.8	21.5	-1
4月	148.7	0.0	13.7	26.2	2.2
5月	127	0.0	18.9	30.6	7.3
6月	194.5	0.0	22.7	33	13.6
7月	227	0.0	26.6	35.8	20
8月	209.1	0.0	27.8	36.7	20.1
9月	203.9	0.0	23.5	32.6	15
10月	173.8	0.0	17.9	29.2	7.7
11月	77.6	0.0	12.1	22.3	2.8
12月	62.9	0.0	6.7	15.9	-0.9

※ 気象庁各種データ・資料 (<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>) をもとに作成した。統計期間10年間〔平成25年から令和4年（2012～22）まで〕の平均観測値をもとに作成した。



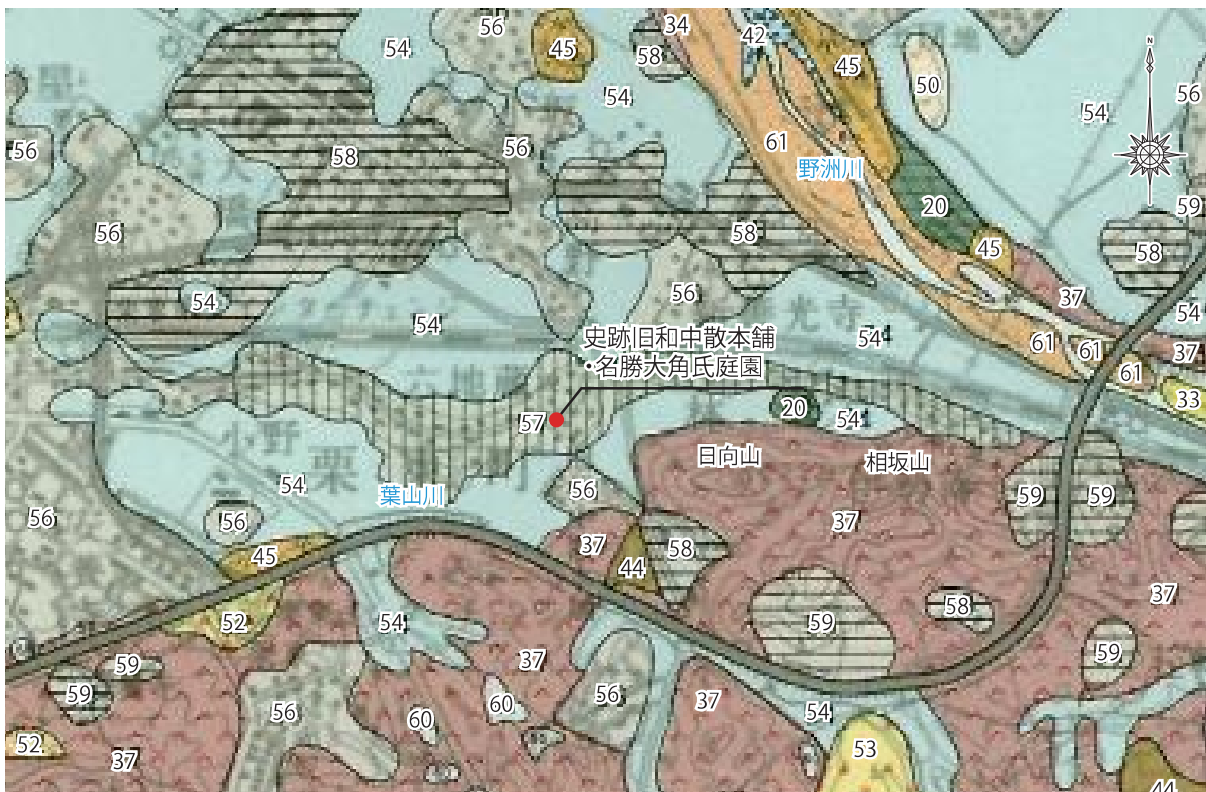
[図 2-5] 年間月別平均気象推移（観測地所：大津）

※ 1 気象庁「過去の気象データ」及び彦根地方気象台「滋賀県の気候」を参照した。

第5項 植生

昭和58年度(1983)に実施された第3回自然環境保全基礎調査(植生調査)では、指定地は緑の多い住宅地に分類される。また指定地の周辺は、水田雑草群落分布する。このほかに南部の丘陵地ではモチツツジ-アカマツ群集やスギ・ヒノキ・サワラ植林、北東の野洲川では自然裸地がある。

また指定地内では、名勝庭園内には景観木としてクロマツやマキ、ウメ等植栽され、空間を区切る生垣としてツバキやウバメガシ、サカキ、アラカシ等常緑樹が植えられている。旧葉山川堤防の敷地側斜面は竹林となっており、合間にモミジなどの落葉樹や実生木が点在する。斜面外側は桜が等間隔で列植され整備で植栽されたことがわかる。背景林にあたる庭園の築山南東の裏手にはヤダケが繁殖して密生している。一方で隠居所周辺は、イチョウや松などの植栽があり大きく成長していたが、現在は消失し目立った植栽はない状況である。



凡例

- | | | |
|--------------------|----------------------|------------|
| VI. ヤブツバキクラス域自然植生 | VIII. 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生 | X. その他 |
| 20 ケヤキ-チャボガヤ群集 | 42 ツルヨシ群集 | 56 市街地 |
| VII. ヤブツバキクラス域代償植生 | IX. 植林地、耕作地植生 | 57 緑の多い住宅地 |
| 33 ススキ群団 | 44 スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 58 工場地帯 |
| 34 クズ-カナムグラ群落 | 45 竹林 | 59 造成地 |
| 37 モチツツジ-アカマツ群集 | 52 牧草地、人工草地 | 60 開放水域 |
| | 54 水田雑草群落 | 61 自然裸地 |

0 1km

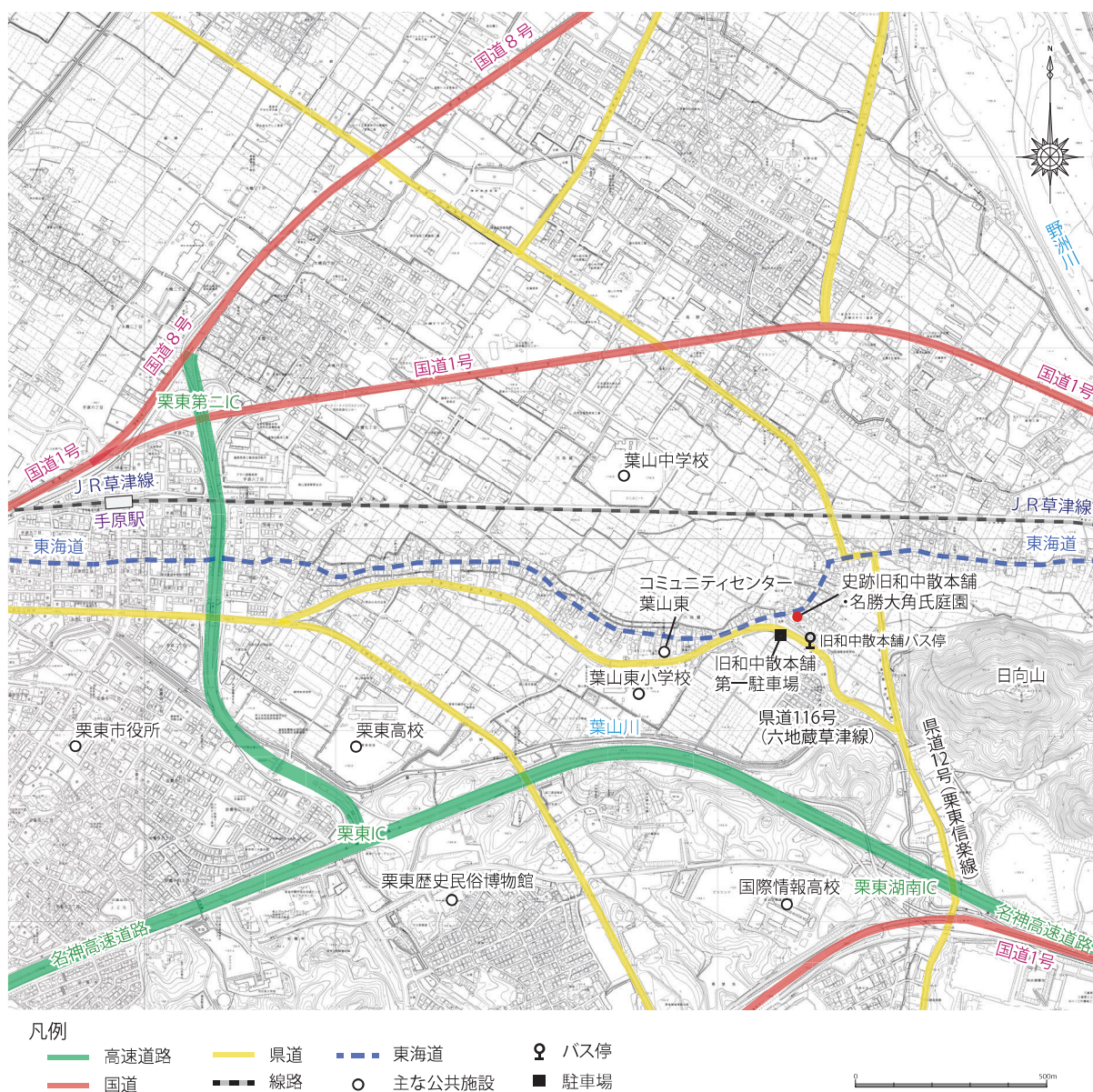
[図2-6] 植生図 (1:25,000)
(植生図「近江八幡」に加筆)

第2節 社会的環境

第1項 周辺環境・アクセス

指定地は栗東市東部の六地蔵に位置する。指定地の周辺は、東海道沿いに住宅地が密集し、その周囲には田畑が広がる。また高等学校や中学校、小学校などの教育施設をはじめ、児童遊園、物流施設等が多く点在する。南の日向山からは、栗東市・野洲川・湖南平野を一望できる。

指定地の東側は県道12号（栗東信楽線）、南西側は旧葉山川跡に敷設された県道116号（六地蔵草津線）が通り、北はJR草津線、南は名神高速道路が横断する。指定地は名神高速道路栗東ICから車5分、JR草津線の手原駅から徒歩25分、バス8分である。また指定地の南には駐車場（普通車5台収容）、くりちゃんバス葉山循環線の旧和中散本舗バス停がある。



[図2-7] 周辺環境 (1:18,000)
 (栗東市都市計画課「地形006」「地形007」「地形010」「地形011」を合成のうえ加筆)

第2項 都市計画区域

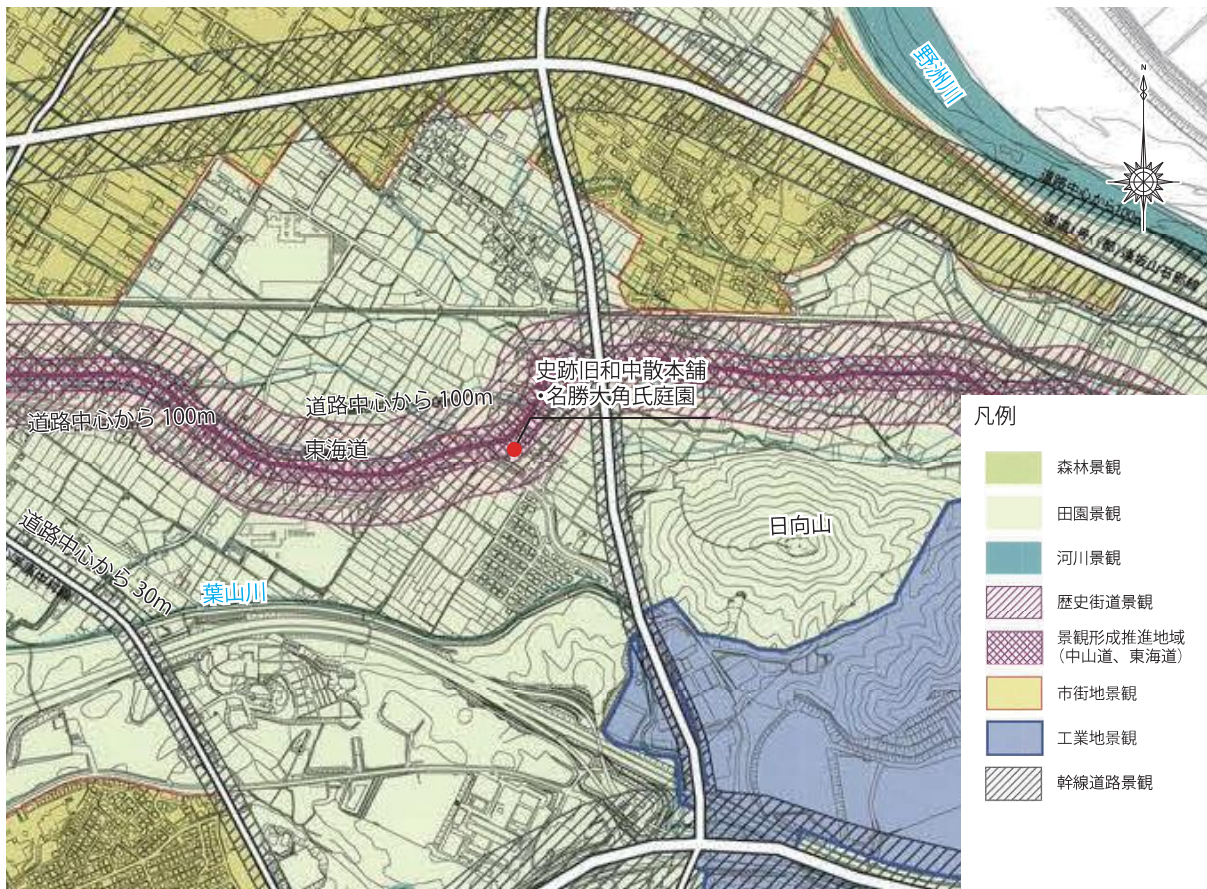
栗東市は6市（大津市、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市）により構成される大津湖南都市計画区域に含まれ、指定地は都市計画区域の市街化調整区域に区分される。

栗東市の定める第四次栗東市都市計画マスタープランでは、景観形成拠点として位置づけられており、伝統的建築物や歴史的な雰囲気の街並みなどの保全、育成を進めるとともに、特に指定地のある六地藏周辺は「立場」として発展した、地区の個性をはぐくむ景観形成を目指す拠点とされている。

また、景観づくりのために「百年先のあなたに手渡す栗東市景観計画」（以下、百年計画）の策定、「栗東市景観条例」の制定がされている。道路中心から100mの範囲が歴史街道景観エリアとされ、東海道など歴史街道を固有の資産として位置づけ、地域住民の主体的な意識や活動を育みながら、歴史・文化が香る景観づくりに取り組む方針としている。

[表 2-2] 都市計画区域等（指定地内）

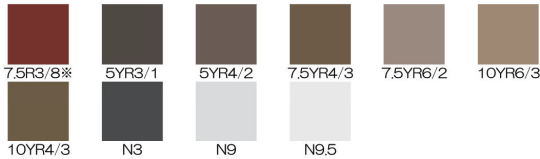

法令等	区域・地区区分、規制の内容
都市計画法	都市計画区域：市街化調整区域
栗東市景観条例	景観特性：歴史街道景観
	栗東市景観計画区域：景観形成推進地域「東海道景観形成推進地域」
	屋外広告物：届出対象地域



[図 2-8] 景観特性図
(栗東市景観条例「景観特性図」を基に作成)

さらに、百年計画では景観法に基づき、道路と敷地の境界から 30 m の範囲にある敷地を景観形成推進地域として定めており、指定地は東海道景観形成推進地域に区分される。市域全域の全ての建築行為で風格づくり会談の申出が必要となっており、該当地区の景観形成ガイドラインに沿って、市と協議をしながら建築行為を進めるよう示されている。特に配慮が求められるポイントとして、連続した街並み景観の形成（高さ、色、素材、形態・意匠など）、緑化、土塀、板塀、柵などの設置、眺望景観の配慮等が挙げられている。

[表 2-3] 景観特性ごとの基本方針
 (栗東市景観形成ガイドライン「景観特性ごとの基本方針表③歴史街道景観」)

景観づくりの基本方針 ③歴史街道景観	
東海道及び中山道の歴史街道は、固有の資産として位置づけ、地域住民の主体的な意識や活動を育みながら、歴史・文化が香る景観づくりに取り組みます。	
配慮すべき視点	
展開方針の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○連続した街並み景観の形成（高さ、色、素材、形態・意匠など） ○歴史街道にあう緑化、土塀、板塀、柵などの設置 ○歴史街道からの眺望景観の配慮
色彩に関すること (おすすめ色)	
緑化等に関すること	 <p>前面に駐車場を設ける場合は、歴史街道の雰囲気と調和する生け垣（樹木）を設けるなど、景観への配慮が感じられるように設けましょう。</p>

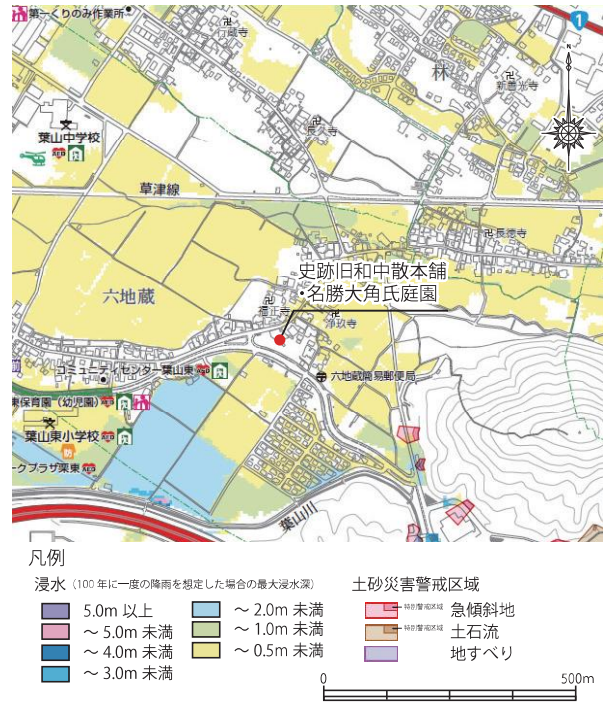
第3項 災害警戒区域

栗東市総合防災マップ（令和3年（2021）3月作成）によると、指定地は自然堤防の微高地上に立地しているため、洪水や浸水、土砂災害等の水害リスクは低い。ただし、想定を越える降雨等により、想定区域外においても水害が発生する可能性がある。

また平成26年度（2014）滋賀県地震被害想定では、指定地は推定震度分布（全地震最大）において震度6弱と想定されている。



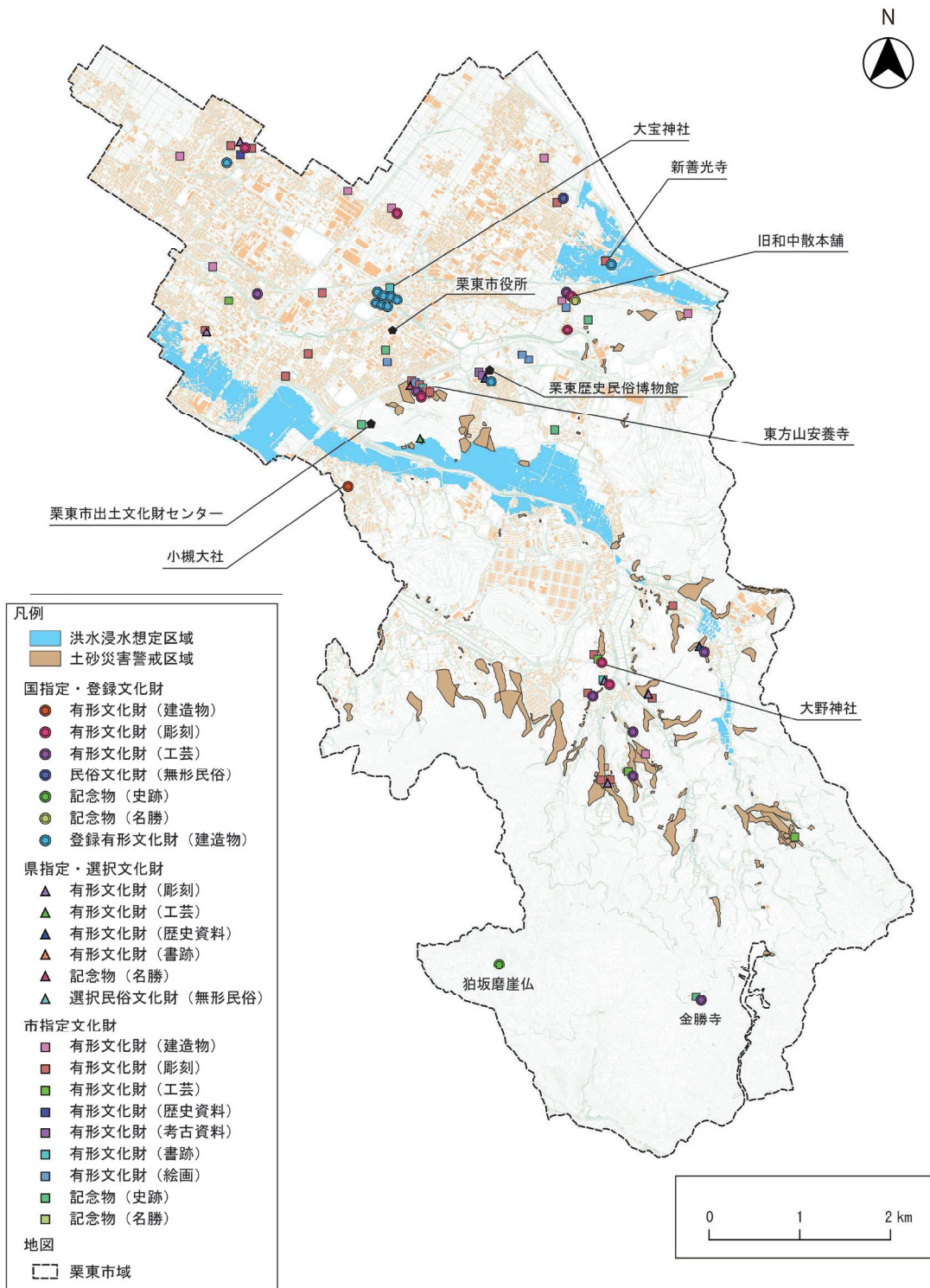
【図 2-9】 栗東市総合防災マップ 洪水（1：15,000）
（栗東市総合防災マップに加筆）



【図 2-10】 栗東市総合防災マップ 浸水・土砂災害
・家屋倒壊等氾濫想定区域（1：15,000）
（栗東市総合防災マップに加筆）



【図 2-11】 推定震度分布（全地震最大）（1：12,500）
（「滋賀県防災情報マップ」<https://shiga-bousai.jp/dmap/top/index>を基に作成）



〔図 2-12〕 栗東市指定等文化財の分布と想定浸水・土砂災害警戒区域図
 (『栗東市文化財保存活用地域計画』 令和4年(2022))

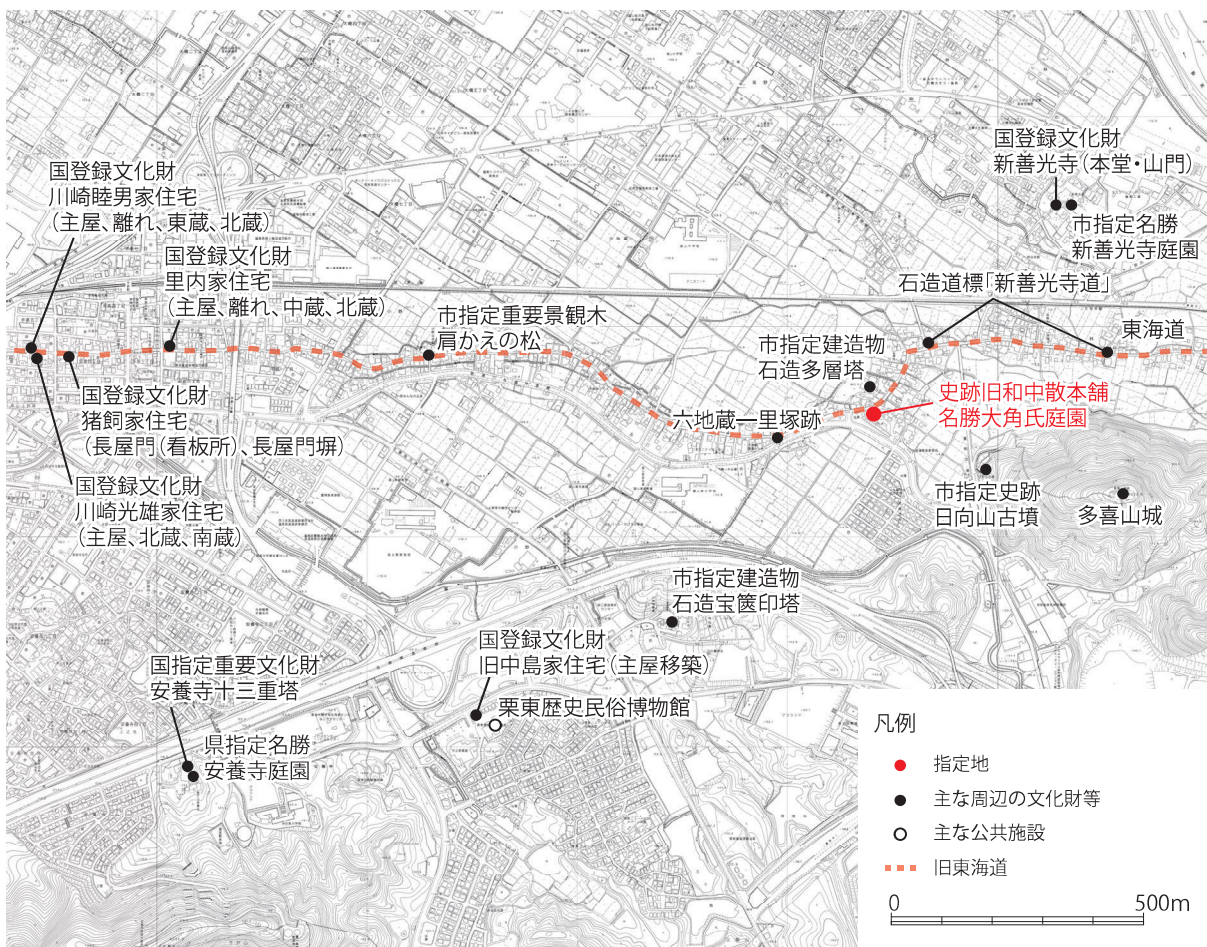
第3節 歴史的環境

第1項 周辺の文化財

旧和中散本舗の周辺は古くから人々が活動した地であり、高野遺跡では縄文時代前期の痕跡が確認されている。古墳時代には集落が形成され、後期には名勝庭園南東方向に見える日向山に日向山古墳が作られた。奈良時代末から平安時代初頭に東海道が官道として整備され、交通の要所として国家を支える重要な地であった。戦国時代には織田信長の勢力によって日向山山頂に、東海道を睥睨する多喜山城が築かれ湖南や甲賀を睨む拠点となり、次の豊臣秀吉の時代には六地藏で寺内集落が作られて、街道を中心とする経済の発展が進んだ。江戸時代になると、幕府により街道と宿駅地の整備により、寺内集落が街村集落へと変貌し、本史跡・名勝が誕生するに至った。

これらの歴史的経緯から東海道沿いに立地する指定地の周辺には、多くの文化財が残されている。指定地の南には6世紀の日向山古墳（市指定史跡）、北東の新善光寺には鎌倉時代建立の石造多層塔（市指定建造物）がある。街道沿いには六地藏一里塚跡や石造道標「新善光寺道」、市指定景観重要木「肩かえの松」などが点在し、また江戸時代末期の猪飼家住宅をはじめ、明治時代の里内家住宅や川崎睦男家住宅、川崎光雄家住宅などは、いずれも国登録有形文化財である。

このほかにも江戸時代の安養寺庭園（県指定名勝）や新善光寺庭園（市指定名勝）が近辺に所在する。さらに栗東歴史民俗博物館では、旧和中散本舗の歴史資料をはじめ、地域の資料の収集・調査・保存・展示をしている。



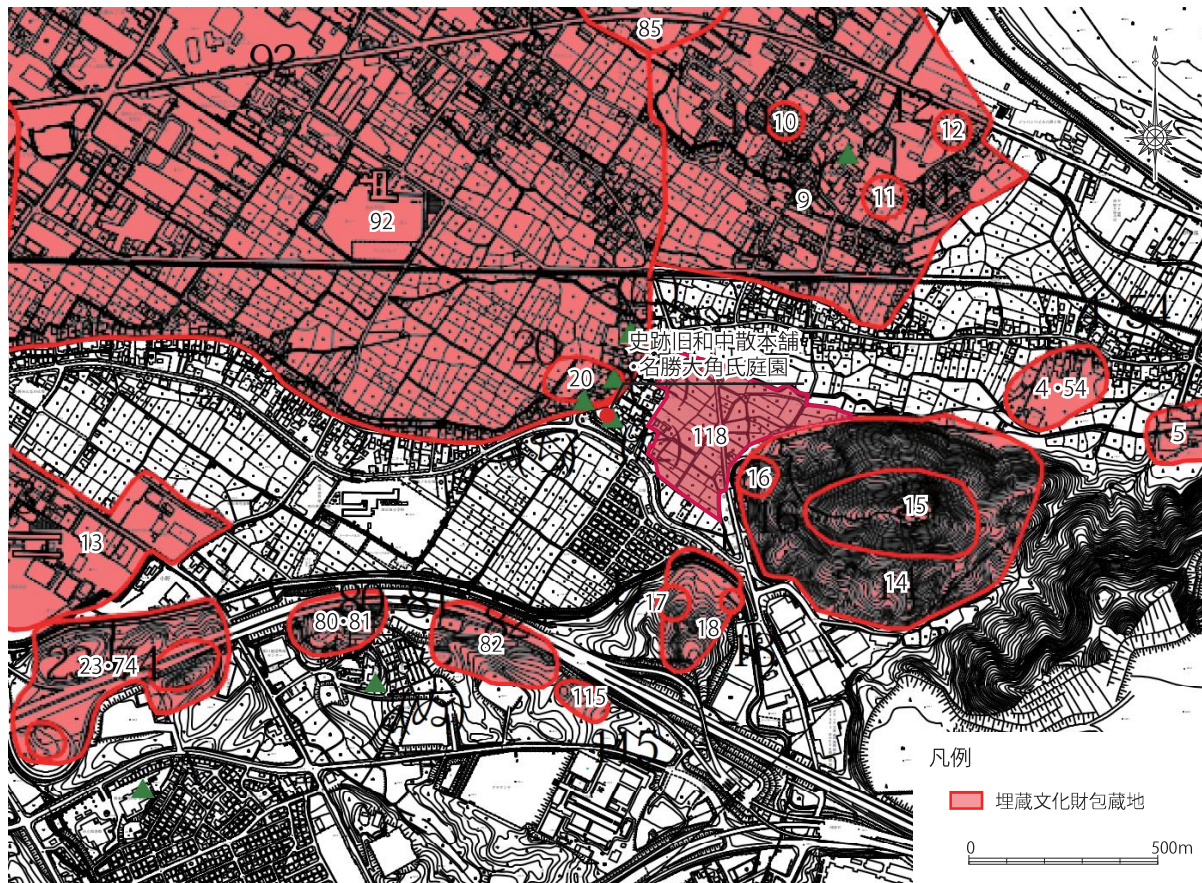
〔図 2-13〕 周辺の文化財 (1 : 18,000)

(栗東市都市計画課「地形 005」「地形 006」「地形 007」「地形 009」「地形 010」「地形 011」を合成のうえ加筆)

第2項 周知の埋蔵文化財包蔵地

指定地の周辺には、周知の埋蔵文化財包蔵地が複数ある。平坦地では、縄文時代から近代にかけての集落跡・古墳・その他墓跡が広く分布する。また丘陵地や野洲川左岸扇状地では、古墳が多く点在し、古代の墓域であったと考えられる。このほかに社寺跡や城館跡が点在する。

指定地を含む高野遺跡では、古墳時代の大規模集落跡や古代東海道の側溝跡が確認されている。また六地藏城遺跡は、現在の福正寺の位置に本丸があったとされ、本丸、二の丸の小字が残る。



〔図 2-14〕 周知の埋蔵文化財包蔵地（1：20,000）
（栗東市遺跡地図に加筆）

〔表 2-4〕 周辺にある周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡番号は図 2-14 の図中番号に対応）

遺跡番号	遺跡名	種別	時代
4	相坂寺遺跡	社寺跡	その他
5	金山古墳群	古墳群	古墳
9	林遺跡	集落跡・古墳・その他墓跡	古墳～近世
10	多福寺遺跡	社寺跡	古墳～近世
11	大塚古墳	古墳	古墳
12	イク塚古墳	古墳	古墳
13	小野遺跡	集落跡・その他墓跡	古墳～中世
14	唯心教寺遺跡	社寺跡	その他
15	多喜山城遺跡	城館跡	中世
16	日向山古墳	古墳群	古墳
17	岡山古墳	古墳	古墳
18	堂山古墳群	古墳	古墳
20	六地藏城遺跡	城館跡	中世～近世
23	佐世川古墳群	古墳群	古墳
54	谷口遺跡	城館跡	中世
74	佐世川遺跡	散布地	弥生
80	谷田古墳	古墳	古墳
81	石場山古墳	散布地	その他
82	北尾遺跡	社寺跡	その他
85	岩畑遺跡	集落跡・古墳・その他墓跡	縄文・古墳～近代
92	高野遺跡	集落跡・古墳・その他墓跡	縄文・古墳～近代
115	北尾東遺跡	集落跡	古代(奈良)
118	六地藏遺跡	集落跡	弥生～近世